

第12回「松崎町民の底力」(広報まつぎ 令和4年12月号掲載)

松崎を訪れる方々が口をそろえて褒めてくださる中に必ず入っているのが、「人が温かい」といった言葉です。松崎町の誇れる資産は、人であると確信しています。

古くは石部の棚田の土砂災害や狩野川台風の被害など、被災したときに住民同士で力を合わせ復興復旧にあたってきました。いつの時代も住民の力で地域を支えてきた証でもあります。

現在においても、花の会や松崎のうた、体育協会や文化協会、老人会、子ども会や少年団といった活動は、住民が自らの地域を元気にするために続けられていることです。

これまで多くの学問分野で人間は本質的に利己的で人間の欲求は個人的なものだと想定されてきましたが、経済学、社会学、心理学など多様な分野における昨今の研究が明らかにしたのは、人間は他者の求めや苦しみに同調する生物だということです。

雲見で災害が起こった時に、被災を逃れた宿の方々もお客さまを断り、被災した宿の支援にあたりました。人間の本質である寄り添い助け合う美しい心が見られた瞬間でした。これが過疎化や高齢化などの課題に立ち向かう松崎町民の底力だと改めて強く感じました。